

医技専で信頼される医療人育成



玉木学園 理事長
おにづか きんきち
鬼塚 謹吉 氏

◎出身校

熊本県立天草高校、長崎大学学芸学部

◎長崎の好きなところ

「よそもん」への寛容さ／歴史的に外来文化を受け入れてきた土地ならではの

◎趣味

学校に行くこと／学生とのおしゃべりが元気の源です

長崎港を眼下に望む長崎市愛宕地区にある、赤い三角屋根の建物。ここ、玉木学園系列の長崎医療技術専門学校（医技専）では、未来の理学療法士、作業療法士たちが「信頼される医療人」としての資質を磨いています。

医技専は、超高齢化社会の到来によるリハビリテーション専門職の需要増加を見据え、1995年に開校しました。以降、多くの卒業生が県内外の施設で活躍しています。学生全員にタブレットを配布した最先端のICT教育も特長の一つですが、一番の強みは熱心な講師陣の丁寧なサポートです。国家試験前になると、学生と一緒に寝る間も惜しんで勉強してくれる先生ばかり。感謝、感謝です。

心のもった指導を受けた卒業生たちは、就職先での評価が高く、引く手あまたです。就職率は毎年100%。全国から求人があり、2021年度は作業療法士の求人倍率が約80倍でした。今後も社会の高齢化は加速すると予想され、訪問型リハビリなど、さらに幅が広がっていく職種だと思っています。

実は84歳だった2年前に脳梗塞で倒れ、僕自身がこの職種の素晴らしさを身をもって体験しました。早く日常生活に復帰できたのも、理学・作業療法士さんのリハビリのおかげです。中でも作業療法士は、新聞紙など身近な小道具を使った訓練を独自の工夫で編み出していて、その方の持ち味を生かせる仕事だと感じました。



陶芸を用いたリハビリ手法を学ぶ作業療法学科の学生

